ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.								

シートNO.

ボーリング名	NO.B-1	調査位置				北　緯	36 ° 53 ' 51.0000 "
発 注 機 関	栃木県大田原土木事務所　整備部			調査期間	2010-10-28 ～ 2010-10-30	東　経	140 ° 02 ' 21.0000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	230.52 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 35.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	16.40 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
					埋土 (FI)	黒褐		軟らかい	礫混じりシルト主体。 1.30mより粘土主体となり、色調は暗茶褐に変化。 1.60mから1.95mの間、コンクリート片混じる。		
	228.57	1.95	1.95								
					砂混り粘性土 (C-S)	暗褐		軟らかい	粘着中位。 細砂、中砂混じる。		
	227.72	0.85	2.80								
					粘土質細砂 (FSC)	暗褐	緩い		土粒子は均一、含水比は下位。 粘土分多く混じる。		
	227.27	0.45	3.25								
					砂礫 (GS)	暗褐灰	中ぐらい		礫径2から40mmの円、亜円礫主体 礫間粗細砂にて充填。 上部砂多く混じる。 含水比は下位。 4.50mより礫径60mm程度の礫点在 5.20mから5.30mの間、粗砂挟む。		11/01 5.22
	225.22	2.05	5.30								
					粘土 (CH)	茶褐		中位	粘着性は中位から高位。 やや軟弱層となる。 含水比は中位から高位。		
	223.22	2.00	7.30								
					砂質粘土 (CHS)	暗緑灰		中位	細砂分多く混じる。含水比と粘着性は高位。		
	222.72	0.50	7.80								
					粘土質砂礫 (GSC)	暗褐	中ぐらい		礫径10から60mm主体。 礫種は円・亜円礫主体。 間隙に粘土分を含む粗粒砂充填。 風化礫混じる。 含水比は下位から中位。 部分的に粘土分多く混じる。 11.55mよりコア長5から10cm玉石混じる。 含水比は中位から高位。 全体的に締まる。		
							密な				
	215.92	6.80	14.60								
					風化岩 (WR)	暗紫灰	非常に密な		館の川凝灰岩。 柱状コア主体。含水比高位 岩級区分=CLからCM級主体。 コアは爪で傷が付く。部分的に指で潰れる。軟質岩。		
	214.12	1.80	16.40								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	掘進月日
1.15	1／26	1／14		2／40	2	
1.55						
2.15	1／13	1	1／9	3／32	3	
2.47						
3.15	1	4	4	9／30	9	
3.45						
4.15	7	7	8	22／30	22	
4.45						
5.15	13	4	3	20／30	20	10/28
5.45						
6.15	1／20	1／19		2／39	2	
6.54						
7.15	1／20	1／17		2／37	2	
7.52						
8.15	9	11	10	30／30	30	
8.45						
9.15	10	7	6	23／30	23	
9.45						
10.15	11	12	10	33／30	33	
10.45						
11.15	9	9	8	26／30	26	
11.45						
12.15	14	11	10	35／30	35	
12.45						
13.15	11	12	12	35／30	35	
13.45						
14.15	13	10	10	33／30	33	10/29
14.45						
15.15	15	18	17／7	50／27	>50	
15.42						
16.15	18	20	12／5	50／25	>50	10/30
16.40						

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験